

[概要]

学校法人白峰学園は2026年6月5日(金)に開催した理事会および定時評議員会で2025年度決算を承認しました。学校法人会計の計算書類(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表)は、私立学校法と学校法人会計基準に定められた規則に基づき作成されています。概要は以下の通りです。

【資金収支計算書】

資金繰りの状態を表すもので、2025年度内の全ての資金の流れを表示しています。収入の部は学生生徒等納付金収入1億1,928万4,000円、手数料収入61万5,000円、寄付金収入49万3,000円、補助金収入5,105万9,000円、資産売却収入33億100万円、付随事業収入755万9,000円、受取利息・配当金収入429万5,000円、雑収入3,561万9,000円、前受金収入342万5,000円、その他収入として減価償却引当特定資産取崩収入5,000万円など合計で37億2,474万4,000円となりました。

支出の部は人件費2億8,571万7,000円、教育研究経費9,445万1,000円、管理経費1億4,580万5,000円、設備関係支出84万3,000円などで、翌年度繰越支払資金31億9,563万7,000円を含め合計で37億2,474万4,000円となりました。

【事業活動収支計算書】

2025年度の収入と支出の均衡状況を示し、当法人の経営状態を表す計算書で、教育活動収支と教育活動外収支を合わせた経常収支および特別収支で構成されています。

教育活動収入は、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入で合計2億1,470万8,000円。一方、教育活動支出は人件費、教育研究経費、管理経費などで合計6億29万4,000円。教育活動収支の支出超過額は3億8,558万6,000円となりました。教育活動外収入の受取利息・配当金収入429万5,000円を含めた経常収支差額は3億8,129万1,000円の支出超過。特別収支でグラウンド(横浜市港南区港南台9丁目、3,872㎡)の売却に伴う収入として資産売却差額29億8,394万6,000円を計上し、基本金組入前当年度収支差額(事業活動収支差額)は25億9,025万2,000円の収入超過となりました。収入超過額は、予算編成時の見込みに比べ21億4,274万4,000円上回りました。

【貸借対照表】

貸借対照表は、2025年度末における当法人の財政状態を示す計算書で、資産の部、負債の部、純資産の部により構成されています。有形固定資産の土地、建物、構築物、機器備品などについては、取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で計算しています。資産の部合計は56億9,017万8,000円です。固定負債の退職給与引当金、流動負債の未払金、前受金など負債の部合計は6,235万2,000円です。基本金と繰越収支差額で構成される純資産の部合計は56億2,782万7,000円となりました。

[2026年度の取り組み]

本学園の2026年度の経常収支は、全体(短期大学部門と幼稚園部門)で3億200万円の支出超過となる見通しです。部門別には、短大が学生数の更なる減少で3億900万円の支出超過、幼稚園は子ども・子育て支援制度に基づく横浜市の施設型給付園移行による給付費収入が教育活動収入全体を押し上げ700万円の収入超過となる見込みです。

2026年度以降の学生募集を停止した横浜女子短期大学について、文部科学省からは2027年度末までに全在学学生を卒業させることを目標とし、既に策定している諸施策等を着実に実施することを指導されています。こうした指導に基づき、2026年度も前年度と同様に引き続き責任をもって教育を行う体制を維持して、全ての短大在学学生を卒業させるための取り組みを進めるとともに、施設型給付園に移行した幼稚園については、園児確保対策の継続強化を図りながら経常収支を収入超過の状態に推移させ、財務改善の軌道に乗せていくことを目指します。